

News Letter

女性研究者活動支援室

2015.03
創刊号

大学共同利用機関法人 情報システム研究機構 ROIS — Research Organization of Information and Systems

ごあいさつ



北川 源四郎
情報・システム研究機構長

当機構ではこれまで、郷通子理事を中心に様々な男女共同参画の取り組みを行ってきましたが、その活動の特徴は、女性研究者総覧「羽ばたけ 日本の女性研究者」のように、全国の女性研究者の支援を目指してきたところにあります。その一方で、文科省の女性研究者研究活動支援事業への採択に際しては、機構の女性研究者比率の数値目標を掲げ、その実現に向けて努力をしてきました。

ただし残念ながら、法人化後10年間、機構の女性研究者比率は不思議なほど一定の水準に留まってきました。これは採用した女性研究者とほぼ同数が転出していることを意味しています。当該分野の人材育成を重要な使命のひとつとし、流動性を高めることも課せられた機構としては、女性研究者比率に拘るよりは、長期的な視点にたって全国の女性研究者数の増加に貢献すべきということを強く認識しました。

現在、機構では、ビッグデータ時代の科学技術を支えるデータサイエンティストの育成に力を入れています。その一環として、今後の研究に重要な役割を果たし得る優秀な女性研究者を育成し、輩出していきたいと考えています。この度始まった女性研究者支援事業がこの活動を強力に支えていくことを期待しています。



郷 通子
情報・システム研究機構 男女共同参画推進委員長

● ROIS女性躍進プログラムに至る道

平成23年秋、男女共同参画推進委員会がROIS(情報・システム研究機構)にでき、それから3年半、大学共同利用機関として、大学とはひと味違う、女性研究者の研究活動支援策を模索してきました。「羽ばたけ日本の女性研究者(国内の女性研究者データベース)」の構築、日本学術振興会の主催で、ワシントンDCで共催した「日米女性研究者シンポジウム—Connections 2013—」、スウェーデン大使館で、2014年に開催した国際シンポジウム「スウェーデンに学ぶ—女性の多様な研究力とワークライフバランス」(講演資料は公開中:http://danjo.rois.ac.jp/bb8w0as16-147/#_147/)などが挙げられます。この度、念願であった「ROIS女性躍進プログラム」が発足しました。キックオフシンポジウムでは岩田喜美枝氏(21世紀職業財団会長)をお招きし、「女性をもっと活躍できる!」と題して、ご講演いただきました。多くの参加者から大変感動した、勇気を頂いたと喜びの声が寄せられました。女性研究者のもつ多様な発想を駆使して、科学の発展を加速するために、本当に必要な研究支援とは何でしょうか? 大学とは異なる、大学共同利用研究機関として、模索しながら、精一杯の研究支援を企画・実施してまいります。

ROIS 女性研究者活動支援室 ● コーディネーターとして着任しました!



特任准教授
幅崎 麻紀子

はじめまして。平成27年2月1日付けで着任しました、ROIS女性研究者活動支援室・コーディネーター/特任准教授の幅崎麻紀子です。山形大学男女共同参画推進室、筑波大学ダイバーシティ推進室にて、ワーク・ライフ・バランス環境整備、意識啓発活動、相談・カウンセリング、女性研究者の裾野拡大等に従事して参りました。専門は文化人類学で、ネパールと日本をフィールドに、働くこととリプロダクション(産み・育てること)の両立をテーマに研究を行っています。

これから、多様な研究分野の第一線で活躍する皆様と共に、「ROIS女性躍進プログラム」を進めていくことを、とても楽しみにしております。ROISの女性研究者が生き生きと活躍することができるよう、これまでに培った知識や経験、ネットワークを活かし、様々なニーズにきめ細やかに対応しながら、支援活動を行って参ります。お気軽にお声をおかけ下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ROIS—女性躍進プログラム キックオフシンポジウム— を開催しました。

PROGRAM

総合司会 横尾 成子 情報・システム研究機構 URAステーションリサーチ・アドミニストレーター

15:00 開会の辞

河瀬基公子 情報・システム研究機構 URAステーション チーフ

15:05 機構長挨拶

北川源四郎 情報・システム研究機構長

15:15 来賓挨拶

片岡 洋氏 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長

15:30 特別講演「女性研究者支援・養成プログラムの実績と今後の動向」

山村康子氏 独立行政法人科学技術振興機構
科学技術システム改革事業プログラム主管

16:10 基調講演「女性はもっと活躍できる！」

岩田喜美枝氏 公益財団法人21世紀職業財団 会長、元資生堂(株)副社長

16:40 四研究所長からのメッセージ

モデレーター 郷 通子 情報・システム研究機構 理事
白石 和行 国立極地研究所長
喜連川 優 国立情報学研究所長
樋口 知之 統計数理研究所長
桂 勲 国立遺伝学研究所長

17:00 情報・システム研究機構における事業説明

幅崎麻紀子 情報・システム研究機構 特任准教授・コーディネーター

17:20 質疑応答

17:30 閉会の辞

丸山 宏 統計数理研究所 副所長

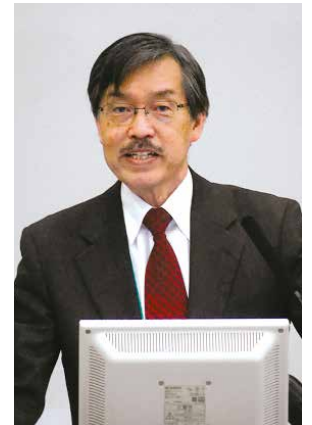
17:45 意見交換会



横尾リサーチ・アドミニストレーターの司会

平成27年2月13日(金)15時より、情報・システム研究機構(立川)の総合研究棟2階大会議室にて、「ROIS女性躍進プログラム キックオフシンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、ROISが平成26年度女性研究者研究活動支援事業(一般型)に採択され、女性研究者のライフイベント支援と研究力躍進のためのプロジェクト「ROIS女性躍進プログラム」を、機構内外に発信することを目的として開催したものです。シンポジウムには、4研究所をはじめとする機構内の研究者・職員、一般など、約90名が参加しました。

シンポジウムでは、河瀬基公子URAステーションチーフによる開会の辞の後、本事業の総括責任者である北川源四郎機構長より挨拶がありました。「女性研究者を増やすには育成が大事であり、機構では、我が国の新しい科学を推進できる、特色のある有能な女性を育て内外で活用していくための活動をROIS女性研究者支援プログラムの中で行っていく」ことを述べられました。



北川機構長の挨拶

開会の辞

河瀬 基公子

●私の代わりに誰かが……

男女共同参画推進委員をさせて頂き、仕事と家庭生活の両立には周囲の理解が重要であると考えようになりました。私は

結婚も育児も介護も未経験であるため、男女共同参画の推進について私には関係ないと他人事のように考えておりました。しかし、もしかすると家庭生活上で私がしなければならない役割を、私の代わりに他の誰かが担ってくださっているかもしれないと思い、考え方を考えるようになりました。ご両親の介護を、ご兄弟にお願いされている方もおられるかもしれません。私の場合、私が年齢を重ねて年金を頂く時に働き手となる若者を、本当は私が産み、育てなければならないのですが、他の方がしてくださっていると考えると、育児や介護をされている方に協力しなければならないと強く思うようになりました。昨年開催された政府の産業競争力会議において、株式会社ワーク・ライフバランスの小室代表取締役社長が、女性たちは男性の働き方を変えてほしいと願っているという趣旨のご発言がありました。育児中、介護中の方だけではなく、その他の方も、もちろん、女性だけではなく男性も、仕事と家庭生活の両立に協力しあえる豊かな社会になることを願っております。



来賓挨拶 片岡洋氏

その後、来賓挨拶として片岡洋氏(文部科学省)から、我が国の女性研究者比率の現状、及び文部科学省が進めてきた数々の女性研究者支援事業・活躍促進プログラムについての紹介がありました。片岡氏は、日本の女性研究者比率は増加傾向にあるものの、欧米諸国と比べて未だ低い状況にとど

まっていること、職階級が上位になるほど比率が低く、指導的な立場の女性の活躍が課題になっていることを、データとともに説明されました。今後、文部科学省では、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブや学術振興会の特別研究員RPDの枠を増加させるなど、さらなる女性研究者の活躍促進に向けた取組支援を図っていくとのことです。

特別講演では、山村康子氏(科学技術振興機構)より、「女性研究者支援・養成プログラムの実績と今後の動向」と題



講師 山村康子氏

してご講演を賜りました。山村氏からは、日本の女性研究者比率は14.6%と国際的に低いこと、毎年0.3%ずつ増加しつつあるが欧米諸国においつくまでには77年かかってしまうこと、その状況を改善するために第3期科学技術基本計画より女性研究者比率の数値目標を設定し、文部科学省で「女性研究者研究活動支援事業」

「RPD制度」「女子中高生の理系進路選択支援事業」など、様々な女性研究者養成施策が立ち上がったことについての説明がありました。女性研究者研究活動支援事業により、女性研究者を取り巻く環境整備や意識改革が進み、女性研究者の離職が抑制された点、研究支援員の配置によって、ライフイベント中の研究者も高い業績を上げることができた点など、事業の成果が上がっているとのことでした。また、東京農工大学の「インセンティブ付与方式」、九州大学の「コンペ方式」、広島大学の「プロフェッサーシフト制度」、北海道大学の「メンターフォース制度」など、女性研究者の積極的な採用・養成のための特徴的な取組例についての紹介もありました。最後に、今後の女性研究者支援の方向性として、研究力を向上し、キャリアアップを図るための環境の整備、そして次世代の女性研究者の育成に、これからも取り組んでいくとのことのお考えが示されました。

次に、岩田喜美枝氏(21世紀職業財団)より、「女性はもっと活躍できる!」と題して、基調講演が行われました。企業経営の視点からも多様な人材が生み出す新しい価値を企業の力にすることが求められており、女性ももっと活躍することで組織もさらに発展するとのことのお話がありました。岩田氏は女性



講師 岩田喜美枝氏

の活躍の構成要素には「仕事と子育ての両立の軸」と「キャリアアップの軸」があり、それには(I)両立もキャリアアップもできない段階、(II)かろうじて仕事と子育ての両立ができる段階、(III)しっかりキャリアアップができる段階があり、(I)から(II)へいくためには「両立支援」、(II)から(III)へ行くためには「ポジティブアクション」が必要だと述べます。さらに、「両立支援の質」についても触れ、「両立支援はキャリアにとってはマイナスに働くので、仕事を免除するのではなく①長時間残業問題を解決する、②労働条件をフレキシブルにする、③男性が育児や家事を妻とシェアするよう働き方を改革することが必要であり、これらの支援によって、女性は見違えるように活躍し始める」との説明がありました。そして、チャレンジングな仕事を与えることと定期的な異動を通じた、女性の育成が重要だと述べます。最後に、「育児と仕事の両立ではなく、育児とキャリアアップの両立を目指して欲しい」と女性たちにエールを送られました。

続いて、郷通子理事の司会で、4研究所長(白石和行極地研究所長、喜連川優情報学研究所長、樋口知之統計数理研究所長、桂勲遺伝学研究所長)が登場するパネルディスカッションが行われ、「①機構長リーダーシップ経費での女性研究者限定人事の進め方、②女性研究者の存在がROISの研究力アップに繋がっていくために必要なこと、③女性研究者の躍進のために最も大切なこと」をテーマに話し合いが行われました。

樋口所長からは、「女性限定公募は初めての経験であり、研究

パネルディスカッションの様子
(左から郷理事、樋口所長、桂所長、白石所長、喜連川所長)

者の分母を増やすことの必要性を感じた。データサイエンティストの女性比率は少ないが、家庭でも十分できる仕事のスタイルなので女性にどんどん参加して欲しい。そして、ポジティブアクションについての批判もあるが、女性にはそんなことは気にせずがんばって欲しい」との発言がありました。桂所長からは、「女性は少数派なので、メンターをつけて研究力アップのための教育をしている。若い層から掘り起こすために、高校生や大学生に科学のおもしろさを広めて行くことが大切だ」との発言がありました。白石所長からは、「もともと女性比率が低いので、ROISの中でも女性限定公募の先鞭を切って実施してきた。女性限定公募には多数の応募があり無事採用できたこと、女性ゆえに必要なことがあればそれを特別に支援していくこと、そして優秀な若手を育てていくことが大事だ」との発言がありました。喜連川所長からは「合計3名の女性採用をしたこと、家庭とのバランスが人生を豊かし、人生を犠牲にして高い研究の成果をあげるべきではないこと、育児期に一時的にアウトプットが減少することは何も問題は無い。子どもを育てることを応援していきたい」との発言がありました。

続いて、幅崎コーディネーターより、「ROIS女性躍進プログラムの中で家庭生活と仕事の両立を支援していくだけでなく、女性研究者のキャリアアップのために、積極的に活動していきたい」との抱負が語られた後、プログラムについての説明がありました。ROIS女性躍進プログラムは①「女性研究者の力



幅崎コーディネーターの事業説明

の向上」を目指しており、そのために論文執筆のための合宿セミナーやセミナーの開催、助成金や賞などの情報提供を行うこと、②「環境改善」事業として、研究支援員の配置、カウンセリングや相談体制の構築、その他様々なワーク・ライフ・バランス支援制度を整備していくこと、③女性研究者の採用・登用に資するプログラムを実施していくことが述べられました。

質疑応答では、「女性研究者支援事業とリサーチ・アドミニストレーター室との連携方法」「離職者の減少と任期付き教員の状況」「人材の多様性による効果」についての質問、「子どもを育てることがすばらしい過程であることも、メッセージとして発信すべき」等の意見が出され、活発な議論が展開されました。

最後に、丸山宏統計数理研究所副所長より、閉会の辞として、性別についての無意識のバイアスとそれを打ち砕くための教育についてのお話がありました。

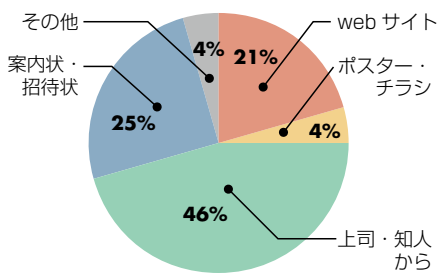
シンポジウムに続く意見交換会にも約30名の参加者があり、女性躍進プログラムを進める上で、貴重な交流の場となりました。



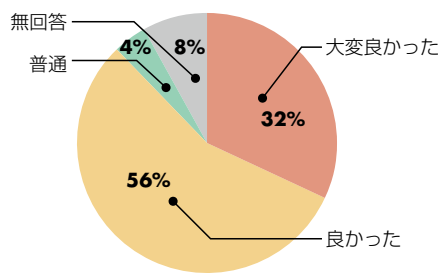
丸山副所長の閉会の辞

シンポジウムアンケート結果

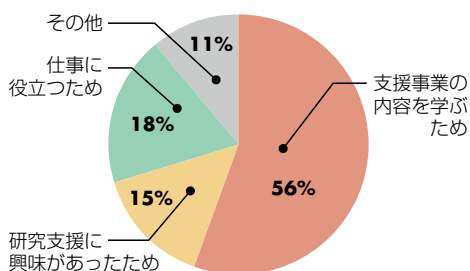
● シンポジウムは何で知ったか



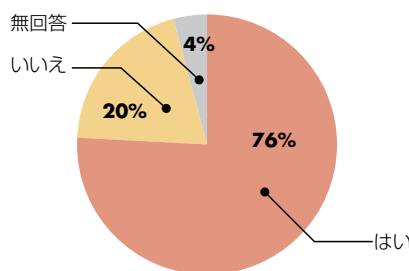
● シンポジウムの満足度



● 参加の動機



● ROISが「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたことを知っていたか



● 今回のシンポジウムで特に印象に残った事柄

- これからは仕事の免除ではなく、「仕事支援」が必要であること
- 評価で「優遇」するのではなく「育成」すべきであること
- 女性のことは女性だけの問題ではなく、むしろ男性の問題であること
- 夢をあきらめない
- 女性研究者をエンカレッジするために、「期待」を伝えることが必要なこと

● 「ROIS女性躍進プログラム」でとりあげてほしい事柄

- 女性研究者の人数を増やす
- 長期的な戦略の策定
- 男性の意識革命
- 女性研究者の知名度アップのための取り組み
- 女性研究者の情報交換の場
- メンタリング制度と方法

WLB —ワーク・ライフ・バランス— ● キャリア相談を利用してみませんか!

女性研究者活動支援室では、各研究所に「WLB／キャリア相談室」を設置し、研究と家庭生活の両立、今後のキャリアメイキング、将来への不安や職場環境の悩みなど、様々なご相談に対応しています。詳しい利用方法・利用時間等につきましては、ROIS女性研究者活動支援室のHPをご覧ください。

相談受付・予約はこちら

電子メール soudan@rois.ac.jp
TEL. 03-3433-1351

平成27年度研究支援員制度 利用者募集スタート!

平成26年度に引き続き、今年度も「研究支援員制度」を実施します。対象者は、「妊娠中の方、子育て(小6まで)中の方、介護中の方」です。該当要件、制度の詳細につきましては、当室のホームページをご覧ください。皆様のご応募をお待ちしています。

ROIS 女性研究者活動支援室はここにあります

● 東京メトロ神谷町駅徒歩5分



情報・システム研究機構 女性研究者活動支援室

〒105-6033 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー33階
Tel:03-3433-1352, 1351 Fax: 03-3433-5062
E-mail: danjo-jimu@rois.ac.jp
<http://yakushin.rois.ac.jp/>

● 編集後記

桜の花の蕾が膨らみ始めた3月、女性研究者活動支援室を立ち上げ、そしてニュースレター創刊号を発行することができました。皆様のご協力を感謝申し上げます。ROIS女性研究者活動支援室は「産声」をあげたばかりです。「身近で頼りになる」支援室をめざして、みなさまと共に活動して参ります。どうぞよろしくお願いたします。